琉球大学学術リポジトリ

[会員の広場]「ウリミバエ根絶防除事業の概要紹介」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島崎, 潤一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017270

会員の広場

「ウリミバエ根絶防除事業の概要紹介」

島 崎 潤 一
（沖縄県ミバエ対策事業所）

小生，新装になった沖縄県本庁舎の農林水産部糖業農産課に2カ月勤務した後，昨年4月より那覇市真地在のミバエ対策事業所に勤務しております．今回，南資研編集委員の野瀬先生より「会員の広場」への寄稿依頼がありましたので当方が勤務する事業所が主体となって実施している表題の紹介をさせていただきます．

ウリミバエは，その名の示すようにウリ類（ニガウリ，キュウリ，スイカ等）を中心とした果菜類，生果実の大害虫で「植物防疫法」によりウリミバエの発生地域から未発生地域へのウリミバエ及びその寄主植物の移動が規制されています．

ウリミバエの発生している沖縄県からは，寄主となる農作物の県外への自由出荷ができず，農業振興の大きな障害となっていました．県はウリミバエの根絶を図るため沖縄振興開発特別措置法に基づく国庫補助事業として1972年（昭和47年）から久米島において誘殺剤による密度抑圧防除及び不妊虫放飼法によるウリミバエ根絶実験事業が実施され，その成果を受けた本格的な根絶防除事業が展開されました．

「不妊虫放飼法」とは，自然の繁殖本能を利用した技術で，まず人工的にウリミバエを増殖して，大量の蛹を生産する．この蛹にコバルト60から出るガンマー線を照射し不妊化する（交尾は正常に行うが妊性のないハエとなる）．

こうして作られた不妊虫を野生虫より多数野外に放飼すると，野生虫のメスは不妊虫のオスと交尾し，正常な野生虫のオスとメス間で交尾する機会が減少する．また，不妊虫と交尾した野生虫が産む卵はふ化しないので，次世代は育たない．さらに，大量の不妊虫を継続的に放飼し続けると，野生虫間で交尾する機会はますます減少し，正常に繁殖できる子孫は次第に減り，最終的には根絶に至るという方法です．

この結果，昭和53年度久米島，昭和62年度宮古群島，平成2年度沖縄群島でそれぞれ根絶に成功し，これらの地域からの果菜類等の出荷が解禁となったところです．

現在，八重山群島での不妊虫放飼による根絶防除を継続中であり，近年中には沖縄県全域からウリミバエが根絶される予定であります．